

現行学習指導要領での「持続可能な(社会の構築)」の言及箇所（該当ページ）

	小学校		中学校		高等学校	
	本文	解説	本文	解説	本文	解説
総則	-	21	-	22, 54,	-	23, 71,
社会	-	3, 4, 5, 6, 12,	33, 44,	3, 4, 8, 16, 52, 95, 115, 118, 119,	34, 37, 43, 48, 51,	(地歴) 2, 3, 4, 13, 21, 24, 26, 28, 43, 46, 47, 49, 83, 88, 105, 124, 126,
						(公民) 2, 4, 17, 19, 20, 38, 42, 53, 54, 56,
理科	-	3, 6, 64, 71,	62, 70,	3, 5, 6, 7, 17, 22, 53, 56, 62, 91, 95, 106,	88	4, 14, 126,
生活	-	20				
家庭(技術・家庭)	-	7, 17,	-	3, 7, 8, 18, 19, 25, 29, 34, 39, 66, 69,	118, 120, 122, 274, 275, 332,	4, 6, 8, 16, 18, 24, 26, 27, 29, 30, 33, 38, 40, 46, 74, 77, 78,
総合的な学習の時間	-	26, 54,	-	26, 47, 53,	-	20, 44, 48, 73, 74,

小学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
総則	－	－	21	第3章 教育課程の編成及び実施 第1節 教育課程編成の一般方針 2 道徳教育(第1章第1の2) (1) 道徳教育の目標 道徳教育の目標として盛り込まれている環境の保全などの理念は、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組み、社会の持続可能な発展の担い手として個人を育成することにつながるものであり、その点にも留意して指導が行われることが重要である。
社会	－	－	3	第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨 (i)改善の基本方針 我が国及び世界の成り立ちや地域構成、今日の社会経済システム、様々な伝統や文化、宗教についての理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。 (中略) さらには、我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを目指している。
			4～5	第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨 (ii)改善の具体的事項 (イ)我が国の歴史や文化を大切にし、日本人としての自覚をもつようにするとともに、持続可能な社会の実現など、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視して改善を図る。 (中略) そのために、広い視野から地域社会や我が国の国土に対する理解を一層深め、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けることや、我が国の歴史や文化を大切にし、日本人としての自覚をもつようにするとともに、持続可能な社会の実現など、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視して、新たに必要となる内容を加えたり、内容の再構成を図ったりすることを求めている。
			6	第1章 総説 3 社会科改訂の要点 (2) 内容の改善について 内容の改善に当たっては、広い視野から地域社会や我が国の国土に対する理解を一層深め、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けること、及び我が国の歴史や文化を大切にし、日本人としての自覚をもつようにするとともに、持続可能な社会の実現など、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことができるように、以下に示すとおり、内容の構成は現行どおりとし、内容の一部を見直し、新たに必要となる内容を加えた。
			12	第2章 社会科の目標及び内容 第1節 社会科の目標 1 教科の目標 (3) 公民的資質の基礎 こうした公民的資質は、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎をも含むものであると考えられる。
理科	－	－	3	第1章 総説 2 理科改訂の趣旨 1 理科の改善の基本方針及び具体的事項 (i)改善の基本方針 (オ)理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会をもたせ、科学への関心を高める観点から、実社会・実生活との関連を重視する内容を充実する方向で改善を図る。また、持続可能な社会の構築が求められている状況に鑑み、理科についても、環境教育の充実を図る方向で改善する。

小学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
理科	－	－	6	第1章 総説 2 理科改訂の趣旨 (1)理科の改善の基本方針及び具体的事項 (ii)改善の具体的事項 (カ) 環境教育の一層の推進の観点から、地域の特性を生かし、その保全を考えた学習や、環境への負荷に留意した学習の充実を図る。 持続可能な社会の構築のために、各教科等において環境に関する学習の一層の推進が重視されている。
			64	第3章 各学年の目標及び内容 第4節 第6学年 2 内容 B 生命・地球 (3)生物と環境 本内容は、持続可能な社会の構築という観点から、水や空気に関する環境問題との関連で扱うことが考えられる。
			71	第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (2)生物、天気、川、土地などの指導については、野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに、自然環境を大切にし、その保全に寄与しようとする態度を育成するようにすること。 こうした体験は、自然環境を大切にし、その保全に寄与しようとする態度の育成につながるものであり、持続可能な社会で重視される環境教育の基盤になるものといえる。
生活	－	－	20	第3章 生活科の内容 第1節 内容構成の考え方 2 内容構成の具体的な視点 生産と消費については、持続可能な社会が求められる中、自らが必要な物を作るとともに、それを繰り返し使ったり、活用したりすることができるようにする必要がある。
家庭	－	－	7	第1章 総説 3 家庭科改訂の要点 (2)内容について オ 主体的に生きる消費者をはぐむ視点の重視 持続可能な社会の構築など社会の変化に対応して、主体的に生きる消費者としての態度を育成する視点から、内容「D身近な消費生活と環境」を設定した。
			17	第2章 家庭科の目標及び内容 第2節 家庭科の内容構成 2 内容の示し方 ③ 少子高齢化や食育の推進、持続可能な社会の構築など、社会の変化に対応する視点からの内容の再構成
総合的な学習の時間	－	－	26	第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第1節 指導計画の作成に当たっての配慮事項 (5)学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題とは、社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題のことである。そのいずれもが、持続可能な社会の実現にかかわる課題であり、現代社会に生きるすべての人が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。

小学校				
	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
総合的な学習の時間	－	－	54	第5章 総合的な学習の時間の指導計画の作成 第4節 学校において定める内容の設定 2 内容の設定と三つの課題 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題とは、ここ数十年の間に社会の変化に伴って新たに生じた、またはその深刻さを増してきた、あるいは切実に意識されるようになってきた、現代社会における生活上の諸課題のことである。そのいずれもが、 持続可能な社会 の実現にかかわる課題であり、現代社会に生きるすべての人が、これらの課題を自分のこととして受け止め、日々の生活の中で自己の生き方とのかかわりで考え続け、よりよい解決を目指して行動することが望まれる。

中学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
総則	—	—	22	第3章 教育課程の編成及び実施 第1節 教育課程編成の一般方針 2 道徳教育 (1) 道徳教育の目標 道徳教育の目標として盛り込まれている環境の保全などの理念は、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組み、社会の持続可能な発展の担い手として個人を育成することにつながるものであり、その点にも留意して指導が行われることが重要である。
			54	第3章 教育課程の編成及び実施 第5節 教育課程実施上の配慮事項 1 生徒の言語環境の整備と言語活動の充実 具体的には、言語に関する能力を育成する中核的な教科である国語科においては、小学校教育及び中学校教育を通じて、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことのそれぞれに記録、要約、説明、論述といった言語活動を例示した。また、各教科においても、「持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる」(社会)
社会	—	—	3	第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨 (i) 改善の基本方針 我が国及び世界の成り立ちや地域構成、今日の社会経済システム、様々な伝統や文化、宗教についての理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。
			4	第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨 (ii) 改善の具体的事項 (ウ) 公民的分野については、現代社会の理解を一層深めさせるとともに、よりよい社会の形成に参画する資質や能力を育成するため、文化の役割を理解させる学習、ルールや通貨の役割などを通して、政治、経済についての見方や考え方の基礎を一層養う学習、納税者としての自覚を養うとともに、持続可能な社会という視点から環境問題や少子高齢社会における社会保障と財政の問題などについて考えさせる学習を重視して内容を構成する。
			8	第1章 総説 3 社会科改訂の要点 (1) 教科の改訂の要点 また、社会科のまとめとして、持続可能な社会を形成するという観点から、社会的な課題を探究し自分の考えをまとめる学習を行うようにした。
			16	第1章 総説 3 社会科改訂の要点 (2) 各分野の改訂の要点 〔公民的分野〕 オ 課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの重視 持続可能な社会を形成するという観点から課題を探究させ、自分の考えをまとめさせることをねらいとして内容の(4)の「イ よりよい社会を目指して」を今回新たに設けた。

中学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
社会	33	第2 各分野の目標及び内容 [地理的分野] 2 内容 (2)日本の様々な地域 ウ 日本の諸地域 (エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察 地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。	52	第2章 社会科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 [地理的分野] 2 内容 (2)日本の様々な地域 ウ 日本の諸地域 (内容の取扱い) (イ) 環境問題や環境保全を中核とした考察 地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。 (中略) 「持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える」については、地域の地理的事象の形成や特色を理解するためには、持続可能な地域社会の構築のためには地域の環境負荷を最小限にとどめ、環境保全の取組が大切になることなどを踏まえて考察することが必要であることを意味している。
	—	—	95	第2章 社会科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 [公民的分野] 1 目標 (3) また、「人類の福祉の増大」と表現しているように、これからの社会においては、人類の立場から、また、持続可能な社会の形成という観点から、諸課題について考えることが大切であることを示している。
	44	第1 目標 第2 各分野の目標及び内容 [公民的分野] 2 内容 (4)私たちと国際社会の諸課題 イ よりよい社会を目指して 持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。	115	第2章 社会科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 [公民的分野] 2 内容 (4)私たちと国際社会の諸課題 「イ よりよい社会を目指して」では、持続可能な社会を形成するという観点から課題を設定し、探究させ、自分の考えをまとめさせることを主なねらいとしている。
			118 ～ 119	第2章 社会科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 [公民的分野] 2 内容 (4)私たちと国際社会の諸問題 イ よりよい社会を目指して 持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。 (内容の取扱い) 社会科のまとめとして位置付けられたこの中項目は、私たちがよりよい社会を築いていくためにはどうしたらよいのかについて、持続可能な社会を形成するという観点から、課題を設けて探究し、自分の考えをまとめさせ、これから社会参画をしていくための手掛かりを得ることを主なねらいとしている。この観点が今回の改訂において盛り込まれたのは、国際連合の決議にも示されているように、社会の持続可能な発展のためには教育の果たす役割が重要であるからである。 (中略) 「持続可能な社会を形成する」については、ここでは将来の世代のニーズを満たすようにしながら、現在の世代のニーズを満たすような社会の形成を意味している。その際、世代間の公平、地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、環境の保全と回復、天然資源の保全、公正で平和な社会などが持続可能性の基礎となるものであり、環境の保全、経済の開発、社会の発展を調和の下に進めていくことが必要であることを理解させる。

中学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
理科	—	—	3	第1章 総説 2 理科改訂の趣旨 (1)理科の改善の基本方針 (i)改善の基本方針 (オ)理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会をもたせ、科学への関心を高める観点から、実社会・実生活との関連を重視する内容を充実する方向で改善を図る。また、持続可能な社会の構築が求められている状況に鑑み、理科についても、環境教育の充実を図る方向で改善する。
			5～6	第1章 総説 2 理科改訂の趣旨 (2)理科の改善の具体的事項 (ii)改善の具体的事項 (エ)理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会をもたせる観点から、実社会・実生活との関連を重視する内容を充実する。また、持続可能な社会の構築が求められている状況に鑑み、環境教育の充実を図る方向で内容を見直す。 (中略)(エ)については、理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会をもたせる観点から、実社会・実生活との関連を重視する内容を充実すること、持続可能な社会の構築が求められている状況に鑑み、環境教育の充実を図る方向で内容を見直すことを述べ、その上で、具体例として、第1分野、第2分野の最終項目「科学技術と人間」、「自然と人間」についての改善を示している。
			7	第1章 総説 3 理科改訂の要点 (1)改訂に当たっての基本的な考え方 ③科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、科学への関心を高めること 国内外の様々な調査から、生徒が科学を学ぶ意義や有用性を実感していないことなどが課題となっている。そのため、科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていること、理科で学習することが様々な職業と関係していることなど、日常生活や社会との関連を重視して改善を図る。さらに、持続可能な社会の構築が求められている状況も踏まえ、環境教育の充実を図る。
			17	第2章 理科の目標及び内容 第1節 教科の目標 とりわけ、自然環境の保全や科学技術の利用に関する問題などでは、人間が自然と調和しながら持続可能な社会をつくっていくため、身の回りの事象から地球規模の環境までを視野に入れて、科学的な根拠に基づいて賢明な意思決定ができるような力を身に付ける必要がある。
	62	第2 各分野の目標及び内容 〔第1分野〕 2 内容 (7)科学技術と人間 ウ 自然環境の保全と科学技術の利用 (ア) 自然環境の保全と科学技術の利用 自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。	22	第2章 理科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 〔第1分野〕 1 第1分野の目標 (4) このような学習を通して、自然の仕組みや働きについての総合的な見方が養われるとともに、科学的な思考力や判断力が育成され、自然と人間が調和した持続可能な社会をつくっていくための意思決定ができるよう指導することが大切である。

中学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
理科			53～56	第2章 理科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 〔第1分野〕 2 第1分野の内容 (7) 科学技術と人間 なお、「ウ(ア) 自然環境の保全と科学技術の利用」の学習は、第2分野の「(7) 自然と人間」と関連付けて総合的にを行い、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考えさせ、持続可能な社会をつくっていくことが重要であることを認識させる。 (中略) ウ 自然環境の保全と科学技術の利用 (ア) 自然環境の保全と科学技術の利用 自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。 (中略) ここでは、第1分野と第2分野の学習を生かし、科学技術の発展と人間生活とのかかわり方、自然と人間のかかわり方について多面的、総合的にとらえさせ、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察させ、持続可能な社会をつくっていくことが重要であることを認識させることがねらいである。 (中略) (ア) 自然環境の保全と科学技術の利用について ここでは、我々の生活は、科学技術に依存している一方で、科学技術の利用が自然環境に対し影響を与え、自然環境が変化していることを理解させる。エネルギー資源など、我々の生活を支える科学技術に利用可能な資源は有限であることに気付かせる。このことから、限られた資源の中で環境との調和を図りながら持続可能な社会をつくっていくことが課題であり、そのために、自然と人間の共存が不可欠であることを認識させる。
		第2 各分野の目標及び内容 〔第2分野〕 2 内容 (7) 自然と人間 ウ 自然環境の保全と科学技術の利用 (ア) 自然環境の保全と科学技術の利用 自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。	62	第2章 理科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 〔第2分野〕 1 第2分野の目標 (4) このような学習を通して、自然の仕組みや働きについての総合的な見方が養われるとともに、科学的な思考力や判断力が育成され、自然と人間が調和した持続可能な社会をつくっていくための意思決定ができるよう指導することが大切である。
	70		91～95	第2章 理科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 〔第2分野〕 2 第2分野の内容 (7) 自然と人間 さらに、「ウ(ア) 自然環境の保全と科学技術の利用」の学習は、第1分野の「(7) 科学技術と人間」と関連付けて総合的にを行い、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考えさせ、持続可能な社会をつくっていくことが重要であることを認識させる。

中学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
理科				(中略) ウ 自然環境の保全と科学技術の利用 (ア) 自然環境の保全と科学技術の利用 自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。 (内容の取扱い) エ ウの(ア)については、これまでの第1分野と第2分野の学習を生かし、第1分野(7)のウの(ア)と関連付けて総合的に扱うこと。 ここでは、第1分野と第2分野の学習を生かし、科学技術の発展と人間生活とのかかわり方、自然と人間のかかわり方について多面的、総合的にとらえさせ、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察させ、持続可能な社会をつくっていくことが重要であることを認識させることがねらいである。
	—	—	106	第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 各分野の内容の指導 (3) 日常生活や社会との関連 (中略)とりわけ、第1分野、第2分野の内容(7)に共通の「ウ(ア) 自然環境の保全と科学技術の利用」においては、第1分野と第2分野で学んだことを相互に関連付け、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察させ、持続可能な社会をつくっていくことが重要であることを認識させる。 近年、資源の有効利用に貢献する技術、汚染物質や廃棄物を減らす技術やシステムなどが私たちの生活の中に浸透し、広がりつつある。このことは、ただ利便性や快適性を求めるだけではなく、次世代に負の遺産を残さず、持続可能な社会をつくっていくことの重要性についての認識が深まっていることを示している。こうしたことの重要性に気付かせる意味でも、理科の学習の果たす役割は大きい。
家庭 (技術・家庭)			3	第1章 総説 2 中学校技術・家庭科改訂の趣旨 (イ)改善の基本方針 ○ 社会の変化に対応し、次のような改善を図る。 (イ) 持続可能な社会の構築や勤労観・職業観の育成を目指し、技術と社会・環境とのかかわり、エネルギー、生物に関する内容の改善・充実を図る。
			7～8	第1章 総説 3 改訂の要点 (2)内容 ウ 社会の変化への対応 「技術分野」 持続可能な社会の構築やものづくりを支える能力の育成の重視など、社会の変化に対応する視点から改善を図った。 「家庭分野」 少子高齢化や食育の推進、持続可能な社会の構築など、社会の変化に対応する視点から改善を図った。
	—	—	18～19	第2章 技術・家庭科の目標及び内容 第2節 技術分野 2 技術分野の内容 A 材料と加工に関する技術 (内容の取扱い) (1) <u>イ 技術の進展と環境との関係について考えること。</u> (中略)また、新素材や新エネルギーなどの先端技術のほか、持続可能な社会の構築の観点から計画的な森林資源の育成と利用等の技術の必要性に気付かせるなど、省資源に貢献している技術に関心をもたせることも考えられる。 <u>ウ 材料と加工に関する技術の適切な評価・活用について考えること。</u> (中略)例えば、木材や金属などの資源の有効利用に関する技術の開発状況や、再資源化しやすい製品の開発に関する取組などについて、その効果と課題を検討することで、持続可能な社会の構築のために材料と加工に関する技術が果たしている役割について理解させることが考えられる。

中学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
家庭 (技術・家庭)			25	第2章 技術・家庭科の目標及び内容 第2節 技術分野 2 技術分野の内容 B エネルギー変換に関する技術 (2) ウ エネルギー変換に関する技術の適切な評価・活用について考えること。 (中略)例えば、新エネルギーの開発やハイブリッド技術など、環境負荷の軽減を目的とした先端技術について、その効果と課題を検討したり、それらの技術の利用を推進するために行われている方策などについて調べたりすることを通して、持続可能な社会の構築のためにエネルギー変換に関する技術が果たしている役割について理解させることが考えられる。
			29	第2章 技術・家庭科の目標及び内容 第2節 技術分野 2 技術分野の内容 C 生物育成に関する技術 (1) イ 生物育成に関する技術の適切な評価・活用について考えること。 (中略)例えば、水田や森林は、二酸化炭素を吸収したり洪水を防止したりするなど、生物育成に関する技術を利用した農林水産業がもつ多面的な機能について調べることを通して、持続可能な社会の構築のために生物育成に関する技術が果たしている役割について理解させることが考えられる。
	—	—	34	第2章 技術・家庭科の目標及び内容 第2節 技術分野 2 技術分野の内容 D 情報に関する技術 (1) エ 情報に関する技術の適切な評価・活用について考えること。 (中略)例えば、紙の消費量や輸送費、移動に必要なエネルギーの減少など、省資源・省エネルギーの視点から情報通信ネットワークを利用する利点を検討することを通して、持続可能な社会の構築のために情報に関する技術が果たしている役割について理解させることが考えられる。
			39	第2章 技術・家庭科の目標及び内容 第3節 家庭分野 1 家庭分野の目標 「身近な消費生活と環境」では、社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方や環境等に配慮した生活の仕方に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、持続可能な社会における生活の営みへの足掛かりとなる能力と態度を育てることをねらいとしている。

中学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
家庭 (技術・家庭)	—	—	66～69	第2章 技術・家庭科の目標及び内容 第3節 家庭分野 2 家庭分野の内容 D 身近な消費生活と環境 ここでは、消費や環境に関する実践的・体験的な学習活動を通して、消費生活と環境についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、消費者としての自覚を高め、身近な消費生活の視点から持続可能な社会を展望して、環境に配慮した生活を主体的に営む能力と態度を育てることをねらいとしている。 (中略) (2)家庭生活と環境 (内容の取扱い) ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること。 ここでは、消費生活と環境とのかかわりについて関心と理解を深め、持続可能な社会の構築のため、これからの生活を展望して、自分や家族の生活を見直し、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践ができるようにすることをねらいとしている。
	—	—	26	第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第1節 指導計画の作成に当たっての配慮事項 (5) 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題とは、社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題のことである。そのいずれもが、持続可能な社会の実現にかかわる課題であり、現代社会に生きるすべての人が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。
総合的な学習の時間	—	—	47	第5章 総合的な学習の時間の指導計画の作成 第2節 各学校において定める目標の設定 さらに別な要素を付け加える例としては、例えば「地域に対する誇りと愛着を高め」「持続可能な社会づくりへの意識をもち」「自他の思いや願いを尊重し」など、各学校において大切にしたいことで、この時間の趣旨や教育課程上の位置付けに照らしても妥当な要素を付加することなどが考えられる。
	—	—	53	第5章 総合的な学習の時間の指導計画の作成 第4節 学校において定める内容の設定 2 内容の設定と四つの課題 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題とは、ここ数十年の間に社会の変化に伴って新たに生じた、またはその深刻さを増してきた、あるいは切実に意識されるようになってきた、現代社会における生活上の諸課題のことである。そのいずれもが、持続可能な社会の実現にかかわる課題であり、現代社会に生きるすべての人が、これらの課題を自分のこととして受け止め、日々の生活の中で自己の生き方とのかかわりで考え続け、よりよい解決を目指して行動することが望まれる。

高等学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
総則	-	-	23	第3章 教育課程の編成及び実施 第1節 教育課程編成の一般方針 2 道德教育 (2) 道德教育の目標 環境の保全などの理念は、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組み、社会の持続可能な発展の担い手として個人を育成することにつながるものであり、その点にも留意することが重要である。
			71	第3章 教育課程の編成及び実施 第5節 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項 5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項 (1) 生徒の言語活動の充実 ・「現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる」指導事項の新設(地理歴史「世界史A」)
社会(地理歴史編)	-	-	2～3	第1章 総説 第1節 改訂の趣旨 2 改訂の趣旨 (i)改善の基本方針 我が国及び世界の成り立ちや地域構成、今日の社会経済システム、様々な伝統や文化、宗教についての理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。 (ii)改善の具体的事項 ・「地理A」については、防災などの生活圏の地理的課題に関する地図の読図・作図及び地域調査などの作業的、体験的な学習を充実し、実生活と結び付いた地理的技能を身に付けさせるとともに、環境、資源・エネルギー問題などの現代世界の諸課題や持続可能な開発の在り方などについて地域性や歴史的背景を踏まえて考察させ、地理的な見方や考え方を培うことを一層重視する。
34		第2節 地理歴史 第2款 各科目 第1 世界史A 2 内容 (3) 地球社会と日本 オ 持続可能な社会への展望 現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。	4	第1章 総説 第1節 改訂の趣旨 3 改訂の要点 [世界史A] エ 主題を設定させ、探究する活動の充実 内容の(3)に「オ 持続可能な社会への展望」を設け、主題を設定して探究する学習を設定した。この中項目は、今回の改訂において、言語活動の充実を図ることが重要な改善の柱の一つとして位置付けられたことに対応している。この中項目は、生徒自身が内容の(3)のAからEまでに示された事項を参考にして現代世界の特質や課題にかかわる主題を設定し、それまでの世界史学習で身に付けた知識や技能を活用しながら探究し、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現を展望させることをねらいとしている。
			13	第2章 各科目 第1節 世界史A 1 科目の性格と目標 (1)科目の性格 また、「(3) 地球社会と日本」では、まず現代世界の特質と展開過程について一通り学習し、最後の中項目「オ 持続可能な社会への展望」で適切な主題を設定し探究する内容とした。

高等学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
社会(地理歴史編)			21～24	第2章 各科目 第1節 世界史A 2 内容とその取扱い (3)地球社会と日本 また、「オ 持続可能な社会への展望」で、生徒が現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定し探究する活動を通して、持続可能な社会の実現について展望させることとした。 (内容の取扱い) (中略)つまり、歴史の理解を単なる知識の習得のレベルにとどめず、習得した知識を活用して現代世界の課題等を探究し、持続可能な社会の実現について展望させることにつなげていくことが大切である。 (中略) オ 持続可能な社会への展望 現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。 (内容の取扱い) (中略)ここでは、内容の「(3) 地球社会と日本」の「ア急変する人類社会」から「エ地球社会への歩みと課題」までに示された事項を参考にし、現代社会の特質や課題についての適切な主題を生徒に設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究する活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。
			26	第2章 各科目 第1節 世界史A 3 指導計画の作成と指導上の配慮事項 (2) 主題を設定して行う学習についての配慮事項 内容の「(1) 世界史へのいざない」の「ア 自然環境と歴史」、「イ 日本列島の中の世界の歴史」及び「(3) 地球社会と日本」の「オ 持続可能な社会への展望」に示されている主題を設定して行う学習の指導に当たっては、内容の取扱いの(3)のイ、ウの配慮事項を踏まえ、適切な時間を確保し、年間指導計画の中に位置付けて指導することが大切である。

高等学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
社会(地理歴史編)	37	第2節 地理歴史 第2款 各科目 第2 世界史B 2 内容 (5) 地球世界の到来 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる 持続可能な社会の実現 について展望させる。	6	第1章 総説 第1節 改訂の趣旨 3 改訂の要点 [世界史B] ウ 主題を設定して行う学習をすべての大項目に設定 最後に、内容の(5)の「オ 資料を活用して探究する地球世界の課題」では、地球世界の課題に関する適切な主題を生徒に設定させ、資料を用いて探究する活動を設け、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や、世界の人々が協調し共存できる 持続可能な社会の実現 について展望させることにした。
			28	第2章 各科目 第2節 世界史B 1 科目の性格と目標 (1) 科目の性格 そして最後に「(5) 地球世界の到来」では、世界史学習のまとめとして、主題を生徒に設定させ探究する活動を設け、 持続可能な社会の実現 を展望させる。
			43～47	第2章 各科目 第2節 世界史B 2 内容とその取扱い (5) 地球世界の到来 「世界史B」は、全時代を偏りなく取り上げているが、それは単に世界史の知識を習得させるだけにとどまらず、現代世界の成り立ちに関する知識・理解を踏まえるとともに、習得した知識や技能を活用して人類が直面する地球世界の課題を歴史的観点から探究し、 持続可能な社会の実現 を展望する能力・態度を培うことをねらいとしている。 (中略) オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる 持続可能な社会の実現 について展望させる。 (内容の取扱い) ここでは「(5) 地球世界の到来」の「ア 帝国主、義と社会の変容」から「エ グローバル化した20 世界と日本」までに示された事項を参考にして、地球世界の課題に関する適切な主題を生徒に設定させ、探究する活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、「これからの世界と日本の在り方」や「世界の人々が協調し共存できる 持続可能な社会の実現 」について展望させる。 (中略)次に、「世界の人々が協調し共存できる 持続可能な社会の実現 」について展望する際、生徒が「ア 帝国主義と社会の変容」に示された事項を参考にして「工業化と現代人の生活」という主題を設定した場合には、第二次産業革命以後の大量生産・大量消費が現代人に快適な生活をもたらす一方、資源・エネルギーの問題や地球環境の悪化など様々な課題を引き起こしたことについて探究させるなどの活動が考えられる。 (中略)また、「これからの世界と日本の在り方」と「世界の人々が協調し共存できる 持続可能な社会の実現 」について展望する際には、両者を相互に関連付けて取り扱うこともできる。
			49	第2章 各科目 第2節 世界史B 3 指導計画の作成と指導上の配慮事項 (2) 主題を設定して行う学習についての配慮事項 特に「(5) 地球世界の到来」のオについては、現代世界の特質と展開過程についての基本的な知識・理解を習得した後に、それらの成果を踏まえ、現代世界の課題について適切な主題を生徒に設定させ、歴史的観点から探究して、「これからの世界と日本の在り方」や「世界の人々が協調し共存できる 持続可能な社会の実現 」について展望させることをねらいとしている。

高等学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
	43	第2節 地理歴史 第2款 各科目 第5 地理A 2 内容 (1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 ウ 地球的課題の地理的考察 環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ、それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。	83	第2章 各科目 第5節 地理A 1 科目の性格と目標 (2) 目標 また、そうした地域性を踏まえた取組や国際協力によってその解決に取り組むことで、持続可能な社会の構築を目指すことが強く求められている。
			88～89	第2章 各科目 第5節 地理A 2 内容とその取扱い (1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 ウ 地球的課題の地理的考察 環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることとを理解させ、それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。 (内容の取扱い) この中項目は、環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を大観するとともに、15 具体的な事例地域を通してとらえ、各地域でその現れ方が異なっていることを理解させ、また、それらの解決に当たっては持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させることを主なねらいとしている。 (中略)「それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる」とは、この中項目の最終的な到達点を示している。 (中略)なお、持続可能な社会に関連する用語やその概念等については、巻末に参考資料として掲載している。
社会(地理歴史編)	-	-	105	第2章 各科目 第6節 地理B 2 内容とその取扱い (2) 現代世界の系統地理的考察 (内容の取扱い) 「現代世界の諸課題について地球的視野から理解させる」とは、現代世界が抱える様々な要因によって生じている諸課題について、そうした諸課題が地球上の各地で生起している様子や各地に共通してみられる要因、持続可能な社会を実現するために人々が国や地域を越えて協力してその解決に取り組んでいる姿を認識させることを意味している。 (中略)なお、持続可能な社会に関連する用語やその概念等については、巻末に参考資料として掲載している。
			124	第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 4 総則関連事項 (3) 言語活動の充実(総則第1章第5款の5の(1)) 地理歴史科においても、例えば、「世界史A」に「現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる」項目、「日本史B」に「社会と個人、世界の中の日本、地域社会の歴史と生活などについて、適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、考えを論述する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる」項目を新設するとともに、「地理A」や「地理B」の内容の取扱いに「地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること」と示すなど、教科の特質に応じた言語活動の充実が図られているところである。
			126	参考資料 我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画(抄)

高等学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
社会(公民編)	-	-	2	第1章 総説 第1節 改訂の趣旨 2 改訂の趣旨 (i)改善の基本方針 我が国及び世界の成り立ちや地域構成、今日の社会経済システム、様々な伝統や文化、宗教についての理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。
	48	第3節 公民 第2款 各科目 第1 現代社会 2 内容 (3)共に生きる社会を目指して 持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。	17～20	第2章 各科目 第1節 現代社会 2 内容とその取扱い (2)現代社会と人間としての在り方生き方 エ 現代の経済社会と経済活動の在り方 (内容の取扱い) また、環境への負荷を少なくし、健全な経済発展を図り、持続可能な社会を築くことが、公害防止と地球規模での環境保全にとって必要であることの理解を深めさせるとともに、現代文明と生活様式の在り方を見直すことの必要性にも気付かせるようにする。 (中略) (3)共に生きる社会を目指して 持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。 (内容の取扱い) この大項目は、内容の(1)及び(2)の学習の成果を踏まえ、持続可能な社会の形成に参画するという観点から、現代社会における課題について探究し、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方を考察させることを主なねらいとしている。 (中略)「持続可能な社会の形成に参画」については、今回の改訂において、課題探究の観点として取り入れられたものである。これは、国際連合の決議にも示されているように、社会の持続可能な発展のためには教育の果たす役割が大きいという指摘を踏まえて、新たに取り入れられたことに留意する必要がある。またこうした社会の形成に参画するためには、諸課題の考察を通して持続可能な社会の形成に参画する態度や意欲をはぐくむことが大切である。 (中略)① 課題の設定については、各地域や学校、生徒の実態に応じて進め、生徒が持続可能な社会の形成にどのように参画するかについて考えることができる課題を設けることが必要である。

高等学校

本文			解説		
	ページ数	記述	ページ数	記述	
社会(公民編)	51	第3節 公民 第2款 各科目 第3 政治・経済 2 内容 (3) 現代社会の諸課題 政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、 持続可能な社会の形成 が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。	4	第1章 総説 第1節 改訂の趣旨 3 改訂の要点 「政治・経済」では、習得した知識、概念や理論などを活用し、 持続可能な社会の形成 という観点から課題を探究させ、政治や経済についての見方や考え方を身に付けさせるという従前の構成を 引き継ぎ、一層の充実を図ることとした。	
		42	第2章 各科目 第3節 政治・経済 1 科目の性格と目標 (1)「政治・経済」の基本的な性格 今回の改訂では、グローバル化や規制緩和が進展し一層の変化が予想される社会において、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きること、 持続可能な社会の実現 を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力の育成が求められていることに留意した。		
		53～56	第2章 各科目 第3節 政治・経済 2 内容とその取扱い (3) 現代社会の諸課題 政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、 持続可能な社会の形成 が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。 (中略)ここでは、 持続可能な社会の形成 が求められる現代における日本や国際社会の政治や経済の諸課題について多面的・多角的に探究させ、望ましい解決の在り方について考察を深めさせることを主なねらいとしている。 「持続可能な社会の形成」 については、今回の改訂において、課題探究の観点として取り入れられたものである。これは、国際連合の決議にも示されているように、社会の持続可能な発展のためには教育の果たす役割が大きいからである。 ア 現代日本の政治や経済の諸課題 ここでは、現代日本の政治や経済の諸課題として、「少子高齢社会と社会保障」「地域社会の変貌と住民生活」「雇用と労働を巡る問題」「産業構造の変化と中小企業」「農業と食料問題」などから幾つかを選択して取り上げ、それらの課題について、政治と経済との関連に留意しながら多面的・多角的に探究させ、 持続可能な社会の形成 という視点から望ましい解決の在り方について考察を深めさせることを主なねらいとしている。 (中略)例えば、自らが居住している地域社会が高度経済成長期以降どのように変化してきたのか、どのような課題があるのかを調べ、それを手掛かりとして、地域社会が発展するためには、どのような政策や制度などが必要なのか、そのためには国と地方公共団体との役割はどうあるべきか、地域が特色を生かしながら 持続可能な発展 をしていくためにはどのような政策が必要なのかを探究させることが考えられる。		

高等学校

	本文		解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
社会(公民編)				イ 国際社会の政治や経済の諸課題 ここでは、現代日本の政治や経済の諸課題として、「少子高齢社会と社会保障」「地域社会の変貌と住民生活」「雇用と労働を巡る問題」「産業構造の変化と中小企業」「農業と食料問題」などから幾つかを選択して取り上げ、それらの課題について、政治と経済との関連に留意しながら多面的・多角的に探究させ、持続可能な社会の形成という視点から望ましい解決の在り方について考察を深めさせることを主なねらいとしている。 (中略)また、その解決に向けて、環境負荷を最小限にとどめ、持続可能な社会を構築するためには、省資源・省エネルギーの推進、原子力の活用、太陽光や風力などの新エネルギーの利用など、様々な方策を検討する必要があることを理解させる。 このような理解の上に立って、地球環境の保全を優先する考え方と、生活水準の向上を目指す経済発展(開発)を優先する考え方とを対照させ、「持続可能な開発」という視点から探究させる。 (中略)このような理解の上に立って、国際経済格差の是正について、先進国や国際機関による経済援助を中心とする考え方と発展途上国の自助努力を中心とする考え方を対照させ、発展途上国の経済的な自立と持続可能な発展と先進国の協力の在り方について探究させる。
	-	-	38	第2章 各科目 第2節 倫理 2 内容とその取扱い (3)現代と倫理 イ 現代の諸課題と倫理 なお、これら現代の倫理的諸課題の学習に当たっては、持続可能な社会の形成という視点をもつことも大切である。
			62	参考資料 我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画(抄)

高等学校

本文			解説	
	ページ数	記述	ページ数	記述
理科	-	-	4	第1章 総説 第1節 改訂の趣旨 2 改訂の趣旨 (i)改善の基本方針 (オ) 理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会をもたせ、科学への関心を高める観点から、実社会・実生活との関連を重視する内容を充実する方向で改善を図る。また、持続可能な社会の構築が求められている状況に鑑み、理科についても、環境教育の充実を図る方向で改善する。
	88	第5節 理科 第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (2) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成を図ること。また、環境問題や科学技術の進歩と人間生活にかかわる内容等については、持続可能な社会をつくることの重要性も踏まえながら、科学的な見地から取り扱うこと。	14	第2章 各科目 第1節 「科学と人間生活」 1 「科学と人間生活」の性格 現在、環境問題やエネルギー問題といった地球規模での課題が増すなか、人間が自然と調和しながら持続可能な社会を構築することが強く求められている。
			126	第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 第2節 内容の取扱いに当たって配慮すべき事項 2 生命の尊重と自然環境の保全 (2) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成を図ること。また、環境問題や科学技術の進歩と人間生活にかかわる内容等については、持続可能な社会をつくることの重要性も踏まえながら、科学的な見地から取り扱うこと。 (中略) 環境問題や科学技術の進歩と人間生活にかかわる内容等については、持続可能な社会をつくることの重要性も踏まえながら、科学的な根拠に基づいて考察させるなど、科学的な見地から客観的に扱うことが求められる。
理数	332	第9節 理数 第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 2 (3) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成を図ること。また、環境問題や科学技術の進歩と人間生活にかかわる内容等については、持続可能な社会をつくることの重要性も踏まえながら、科学的な見地から取り扱うこと。	-	-
家庭	-	-	4	第1章 総説 第1節 改訂の趣旨 3 改訂の要点 (3) 各科目の内容の改善 ⑥ 消費者教育と環境教育を推進するために、消費者としての適切な意思決定に基づいて責任をもって行動できる力を育成することや、生活と経済にかかわる内容、持続可能な社会の構築を目指したライフスタイルを確立するために必要な内容の充実を図った。

高等学校

本文			解説		
	ページ数	記述	ページ数	記述	
家庭	-	-	6	第1章 総説 第2節 教科の目標 高等学校段階では、小学校、中学校における学習の上に立ち、生活にかかわる経済的な視点や生活文化の伝承と創造の視点を踏まえて、 持続可能な社会の構築 に向けて、科学的な根拠に基づいた実践力を身に付けることが重要である。すなわち、家庭科のねらいは、理解させるだけでなく、健康や環境に配慮した生活の実践力の育成と 持続可能な社会 を目指す上で必要なライフスタイルを確立できるようにすることであり、学習方法としては、生活の中で活用する視点を明確にした実践的・体験的な学習を中心としている。 (中略) 持続可能な社会の構築 を目指し、グローバルな視点に立って生活の現状を見つめ、なぜそうするのか、どうしたらよいかという課題意識をもつとともに、実践的・体験的な学習を通して衣食住、家族、保育、消費、環境など家庭生活の様々な事象の原理・原則を科学的に理解すること、及び、それらにかかわる知識と技術を実際の生活上の意思決定や問題解決に生かし、男女が協力して、家庭や地域の生活を主体的に創造する能力の育成を図ることをねらいとしている。	
	118	第9節 家庭 第2款 各科目 第1 家庭基礎 2 内容 オ ライフスタイルと環境 生活と環境とのかかわりについて理解させ、 持続可能な社会 を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動できるようにする。	8	第2章 各科目 第1節 家庭基礎 1 科目の性格と目標 (1) 科目の性格 この科目は、少子高齢化への対応や 持続可能な社会の構築 、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、自立して生活する能力と異なる世代とかかわり共に生きる力を育てることを重視している。 (中略) (2)目標 (中略)すなわち、人の一生を見通しながら生活資源や生活活動について学習することを通して、青年期を起点として自分の生き方を考えさせ、子どもや高齢者などの異なる世代とかかわり共に生きる力、 持続可能な社会の構築 を目指して健康や環境に配慮しながら自立して生活する能力を育成し、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度の育成を目指している。	
	-	-	16	第2章 各科目 第1節 家庭基礎 2 内容とその取扱い (2)生活の自立及び消費と環境 オ ライフスタイルと環境 生活と環境とのかかわりについて理解させ、 持続可能な社会 を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動できるようにする。	
-	-	-	18	第2章 各科目 第2節 家庭総合 1 科目の性格と目標 (1) 科目の性格 この科目は、少子高齢化への対応や 持続可能な社会の構築 、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、家族や家庭の生活の営みを人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえ、家庭や地域の生活をマネジメントする能力を育てることを重視している。 (中略) (2)目標 (中略)すなわち、人の一生を見通しながら生活資源や生活活動について学習することを通して、青年期を起点に自分の生き方を考えさせ、社会を構成する様々な人々との共生30を図る能力を身に付け、自己のライフスタイルを見直し、 持続可能な社会の構築 を目指して健康や環境に配慮しながら衣食住、消費などの生活を創造する能力と実践的な態度の育成を目指している。	

高等学校

本文				解説			
ページ数		記述		ページ数		記述	
家庭				24		第2章 各科目 第2節 家庭総合 2 内容とその取扱い (3) 生活における経済の計画と消費 また、生涯を見通した家計管理の在り方や病気や事故などの不測の事態に備えた経済上のリスク管理について考えさせ、消費者としての批判的思考に基づいて主体的に意思決定し、持続可能な社会の実現に向けて行動できるようにする。	
	120	第9節 家庭 第2款 各科目 第2 家庭総合 2 内容 (4) 生活の科学と環境 生涯を見通したライフステージごとの衣食住の生活を科学的に理解させ、先人の知恵や文化に関心をもたせるとともに、持続可能な社会を目指して資源や環境に配慮し、適切な意思決定に基づいた消費生活を主体的に営むことができるようにする。 (中略) エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立		26～30		第2章 各科目 第2節 家庭総合 2 内容とその取扱い (4) 生活の科学と環境 生涯を見通したライフステージごとの衣食住の生活を科学的に理解させ、先人の知恵や文化に関心をもたせるとともに、持続可能な社会を目指して資源や環境に配慮し、適切な意思決定に基づいた消費生活を主体的に営むことができるようにする。 (内容の範囲や程度) (中略)特に、中学校までに学習した衣食住に関する知識や技術の内容を踏まえて、高等学校では特に科学的な根拠に基づいて理解させ、実生活に活用できるようにするとともに、衣食住生活と社会とのかわりについて考えさせる。また、持続可能な社会を実現するために、資源や環境に配慮した生活を営むことができるようにする。 ア 食生活の科学と文化 (イ) 食生活の自立と調理 (中略)食品の購入から生ごみの廃棄、排水、加熱調理のエネルギーなどについて、環境の維持や持続可能な社会を構築する上で求められる食生活の在り方を考えさせる。 (中略) ウ 住生活の科学と文化 (エ) 住生活と環境 環境には、住宅内部の居住環境と周辺環境を意味する住環境の両面があることを理解させるとともに、地球環境に配慮した快適な居住環境についても考えさせる。また、安全性、保健性、利便性、快適性、持続可能性などの面からよりよい住環境に関心をもたせ、自然環境や社会環境と調和し、様々な生活条件をもった人々が安心して住むことができる住居の環境について考えさせる。 エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立 経済発展や大量生産・大量消費・大量廃棄の生活により、地球温暖化や資源・エネルギーの枯渇など様々な環境問題が生じていることを理解させ、持続可能な消費について考えさせる。また、それらの問題を解決するためには、消費者一人一人の生活意識やライフスタイルを改めることが必要であり、生産や消費の方法を再考し、持続可能な社会を目指すことが重要であることを認識させる。 (ア) 持続可能な消費 (中略)また、プラスチックや紙類、木材などの大量消費がもたらす地球環境への影響を、単に国内問題としてだけでなく、国際的な視点から考えさせるなど、大量生産、大量消費、大量廃棄に至っている消費社会の現状について、持続可能な消費の重要性を理解させるとともに、真の豊かさとは何かを考えさせる。	

高等学校

高等学校			
	本文		解説
	ページ数	記述	記述
家庭	122	第9節 家庭 第2款 各科目 第3 生活デザイン 2 内容 (2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立 イ ライフスタイルと環境 生活と環境とのかかわりについて理解させ、持続可能な社会を目指したライフスタイルを工夫し、主体的に行動できるようにする。	第2章 各科目 第3節 生活デザイン 1 科目の性格と目標 (1) 科目の性格 この科目は、少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて生活の文化的な意味や価値への理解を深め、将来の生活を設計し創造する能力を育てることを重視している。 (中略) (2) 目標 (中略)すなわち、人の一生を見通しながら生活資源や生活活動について学習することを通して、青年期を起点に自分の生き方を考えさせ、子どもや高齢者などの異なる世代とかかわり共に生きる力、持続可能な社会の構築を目指して健康や環境に配慮しながら具体的な事例や体験的な学習を通して衣食住、消費などの生活を創造する能力と実践的な態度の育成を目指している。 (中略)「体験的に習得させ」とは、この科目では、実験・実習などの体験的な学習を通して、人とのかかわる力、すなわち、子どもや高齢者との会話や触れ合いなどにより、相手を理解し、具体的な接し方を学ぶとともに、衣食住、生活設計にかかわる実験・実習を通して、安心・安全で健康な生活と生活文化を継承し、持続可能な社会の構築を目指した生活をデザインし、創造するために必要な力の習得に重点を置くことを示している。
	38～46	イ ライフスタイルと環境 生活と環境とのかかわりについて理解させ、持続可能な社会を目指したライフスタイルを工夫し、主体的に行動できるようにする。 (中略) (5) 住生活の設計と創造 ウ 住居と住環境 ア 住環境と地域 住生活は、自然環境や社会環境、地域などとかかわることを理解させ、集まって住むためのよりよい住環境や住居を取り巻くコミュニティについて考えさせる。また、住環境を守る制度などにも触れ、安全性、保健性、利便性、快適性、持続可能性などの面から住環境について考えさせる。	第2章 各科目 第3節 生活デザイン 2 内容とその取扱い (2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立 ここでは、自立した生活を営むために必要な消費生活と生涯と見通した経済の計画に関して理解させる。また、生活と環境とのかかわりについて考えさせるとともに、持続可能な社会を目指したライフスタイルや生活を主体的に設計することができるようにする。 (中略) イ ライフスタイルと環境 生活と環境とのかかわりについて理解させ、持続可能な社会を目指したライフスタイルを工夫し、主体的に行動できるようにする。 (中略) (5) 住生活の設計と創造 ウ 住居と住環境 ア 住環境と地域 住生活は、自然環境や社会環境、地域などとかかわることを理解させ、集まって住むためのよりよい住環境や住居を取り巻くコミュニティについて考えさせる。また、住環境を守る制度などにも触れ、安全性、保健性、利便性、快適性、持続可能性などの面から住環境について考えさせる。

高等学校

本文			解説		
	ページ数	記述	ページ数	記述	
家庭	274～ 275	第5節 家庭 第2款 各科目 第4 消費生活 1 目標 経済社会の変化と消費生活，消費者の権利と責任，消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を習得させ，持続可能な社会の形成に寄与するとともに，消費者の支援に必要な能力と態度を育てる。 2 内容 (4) 持続可能な社会を目指したライフスタイル ア 消費生活と環境 イ 持続可能な社会の形成と消費行動 3 内容の取扱い エ 内容の(4)については，環境保全に配慮した持続可能な消費生活を考えさせるような活動を行うこと。	74	第2章 各科目 第4節 消費生活 この科目は，消費生活を消費者と生産者双方の立場からとらえさせるとともに，持続可能な社会の形成を目指し，消費者の権利の尊重と自立支援に必要な能力と態度を育てることをねらいとしている。 今回の改訂においては，消費者基本法が目指す消費者の権利の尊重と自立の支援に対応し，従前の「消費生活」の内容に加えて，消費者と企業・行政のかかわり及び連携の在り方や消費者教育などに関する内容を充実させるとともに，持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立に向けて，消費者支援研究などの実践的・体験的な学習を加えるなどの改善を図った。 第1 目標 経済社会の変化と消費生活，消費者の権利と責任，消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を習得させ，持続可能な社会の形成に寄与するとともに，消費者の支援に必要な能力と態度を育てる。 この科目では，消費者の権利と責任，企業の社会的責任や消費者行政に関して理解を深めるとともに，持続可能なライフスタイルを目指し，生活産業の担い手として生活者の視点を重視した消費者支援を行う能力と態度を育てることを目標としている。 (中略)「持続可能な社会の形成に寄与する」とは，消費者であるとともに生活産業にかかわる者として，生活の質の向上に対して個人的にも社会的にも責任をもつという自覚を高め，持続可能な社会の形成を目指した知識と技術を習得させることが重要であることを示している。また，地域の消費者ニーズや産業などと関連させた商品研究などを行い，持続可能な社会の形成に向けて寄与することが重要であることを示している。 第2 内容とその取扱い 1 内容の構成及び取扱い この科目は，(1)経済社会の変化と消費生活，(2)消費者の権利と責任，(3)消費者と企業，行政，(4)持続可能な社会を目指したライフスタイル，(5)消費生活演習の5項目で構成しており，2～4単位程度履修されることを想定して内容を構成している。	
			77～ 78	第2章 各科目 第4節 消費生活 2 内容 (3) 消費者と企業，行政 (内容の範囲や程度) ウ 消費者教育 持続可能な社会の形成を目指し，適切な経済活動を進めるためには，消費者自身が経済社会の仕組みを正しく理解し，商品・サービスなどにかかわる正確な知識，情報に基づいて行動できるようにするとともに，法令を遵守し，消費者の福祉を守り，生活の質の向上に寄与する生産者の育成にもつながることについて考えさせる。 (4) 持続可能な社会を目指したライフスタイル イ 持続可能な社会の形成と消費行動 (内容の範囲や程度) エ 内容の(4)については，環境保全に配慮した持続可能な消費生活を考えさせるような活動を行うこと。 ここでは，消費者としての権利を実現し，適切に意思決定し，主体的に行動する消費者を支援するために必要な知識と技術を習得させるとともに，自分のライフスタイルを見直し，持続可能な消費生活の在り方について考えさせる。 イ 持続可能な社会の形成と消費行動 生活の質の向上と持続可能な社会の形成の実現に向けて，国際社会や地球環境をも視野に入れた実践的な消費行動について考えさせる。	

高等学校

本文				解説	
ページ数		記述		記述	
総合的な学習の時間			20	第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第1節 指導計画の作成に当たっての配慮事項 (5) 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題とは、社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題のことである。そのいずれもが、 持続可能な社会の実現 にかかわる課題であり、現代社会に生きるすべての人が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。	
			44	第6章 総合的な学習の時間の指導計画の作成 第2節 各学校において定める目標の設定 さらに別な要素を付け加える例としては、例えば「地域社会の一員としての自覚を深め」「 持続可能な社会の形成 に果たす役割を認識し」「自他の思いや個々人の尊厳を重んじ」など、各学校において大切にしたいことで、この時間の趣旨や教育課程上の位置付けに照らしても妥当な要素を付加することなどが考えられる。	
			48	第6章 総合的な学習の時間の指導計画の作成 第4節 各学校において定める内容の設定 2 内容の設定と三つの課題 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題とは、ここ数十年の間に社会の変化に伴って新たに生じた、またはその深刻さを増してきた、あるいは切実に意識されるようになってきた、現代社会における生活上の諸課題のことである。そのいずれもが、 持続可能な社会の実現 にかかわる課題であり、現代社会に生きるすべての人が、これらの課題を自分のこととして受け止め、日々の生活の中で自己の在り方生き方とのかかわりで考え続け、よりよい解決を目指して行動することが望まれる。	
			62	第7章 総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成 第3節 単元計画の作成 3 意図した学習を効果的に生み出す単元の構成 例えば、「情報化や国際化の進展する社会と職業」「 持続可能な社会の構築 と職業」「社会貢献や利潤追求と職業」「高齢化社会への対応と職業」などの課題から生徒が関心や疑問に応じて選択し、グループごとに追究していく活動が考えられる。	
			73～74	第9章 総合的な学習の時間の学習指導 第2節 総合的な学習の時間の学習指導のポイント 1 学習過程を探究的にすること ③整理・分析 (中略)また、未来のエネルギー源について、 持続化可能な社会の構築 をテーマに論理的に話し合っていくことなども考えられる。 ④まとめ・表現 (中略)エネルギー環境の問題と 持続可能な社会の構築 の問題とをバランスよく考えながら、日々の暮らしの改善に向けて行動したり、環境保全にかかわる職業の選択を真剣に考えたりすることもある。	